

香川県森連時報

平成18年1月1日発行(年2回)

新年のご挨拶

香川県森連組合連合会
代表理事 善美 真部



新年あけましておめでとうございませう。皆様には、ご健勝で輝かしい平成十八年の新春をお迎えになられたことお慶び申し上げます。

平素は、我々森連組合系統の事業運営にあたり、県、市町、並びに関係機関、関係団体の皆様方のご指導、ご支援に対し厚く御礼申し上げます。

昨年は郵政民営化に伴う政局で衆院の解散があり、自民党が大勝し民主党は大きく後退しました。

一方、わが国の経済は銀行の不良債券にくぎりがつくなど、ようやく明るみ兆しが見えてきたように云われています。

しかし、我々森林・林業界は、相変わらずの木材価格の低迷、林業従事者の減少、高齢化や間伐の遅れなど大変厳しい状況に変化はなく、林家の林業経営意欲は減退し、地域の林業は一層厳しい状況におかれています。

一方、森林に対しては、将来にわたって木材の安定供給、環境への持続的な貢献が求められており、この要請にこたえていくためには、伐採、利用、植栽、育林といった循環型の森林施業を確立して、常に健全な森林を維持していかねばなりません。この目標達成には国民の理解と協力が不可欠であります。

昨今検討が進められている環境税は森林整備を促進する起爆剤となり、大きな成果が期待できます。当連合会におきましては、昨年に引き続き、環境税の創設に向けて努力し、あわせて県下一森林組合の実現を目指し検討を重ねてまいります。

森連組合は、森林所有者の代表として、厳しい現実との戦いに気持ちを新たに、より一層の連携を持ち協力体制の強化・努力が必要であります。

本年も森林・林業を取り巻く環境は、まだまだ厳しい状況におかれると思いますが、相変わらずのご指導、ご協力をお願いいたしますとともに、皆様のますますのご健勝をお祈りして、新年の挨拶いたします。

謹賀新年

香川県
森連組合連合会

代表理事 善美 真部

副会長 毛利 忠幸

専務理事 神田 定幸

理事 石原 收

理事 黒川 恵

理事 佐藤 敬一郎

常務理事 常包 一明

代表 森下 豊

監事 麓 虎之

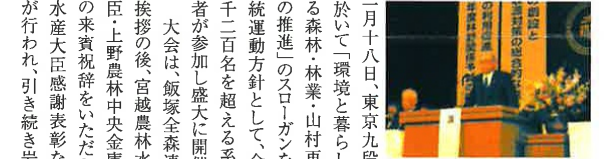
監事 田岡 昭一



平成十七年度森林組合監事並びに担当職員研修会開催

七月二十七日、本会会議室において、全国森林組合連合会荒井兼雄指導・監査グループ長、香川県環境森林部三野桂一郎副主幹を講師に招き、森林組合法改正・法改正に伴う定款変更・森林国営保険・人権問題啓発についての研修を行った。

改正内容	効果
①森林組合の機能の強化。 ●組合員の森林と一体的に整備する森林の所有者(組合員以外)について、森林施業計画の作成、施業により生産される木材の販売事業の員外利用制限を緩和。 ●森林環境教育に関する事業の追加。 ●木質バイオマス、林業技術指導等について員外利用制限を緩和。	●所有者への施業の助成。施業の団地化によるコストの確保。伐採・育林コストの削減。地域材の有利販売。 ●林業体験の機会拡大、森林環境教育のフィールド整備、インストラクターの派遣。 ●燃料となる木質ペレットの生産拡大。林地残材の有効活用。IJターン者に対するOJT研修の実施。
②組織基盤の強化。 ●木材製造業者、中小工務店、緑化活動を行う者等組合を継続的に利用する者に準組合員資格を付与。 ●合併手続の簡素化。	●木材製造業者による組合の乾燥施設等施設の利用推進、中小工務店との顔の見える家づくりの取組み促進、緑化活動を行う者への技術・安全指導の推進。 ●組合の合併コスト低減による合併の促進。
③適切な事業運営の確保。 ●事業別損益を明らかにした書籍の作成・総会提出。 ●子会社等に対する行政の検査権限の付与。	●組合員に対する情報の開示の推進。 ●組合運営の透明性の確保。



第二十五回全国森林組合大会開催
次期系統運動方針決議!

三年ぶりとなる開催となる全国森林組合大会が、去る十一月十八日、東京九段会館に於いて「環境と暮らしを支える森林・林業・山村再生運動の推進」のスローガンを次期系統運動方針として、全国から千二百名を超える系統関係者が参加し盛大に開催された。

大会は、飯塚全森連会長の挨拶の後、宮越農林水産副大臣・上野農林中央金庫理事長の来賓祝辞をいただき、農林水産大臣感謝表彰など表彰が行われ、引き続き岩川全森連専務の情勢報告があった。議事は①次期系統運動方針の策定②環境税の創設と森林吸収対策の総合的な推進③国産材の利用促進と平成十八年度林野関係予算の確保の3項目の提案があり、満場一致で決議された。また、午後からは「環境税創設要求緊急大会」も開催された。なお、次期系統運動の構築②国産材安定供給体制の構築③経営革新と信頼の三つのテーマに平成十八年度までの五カ年を運動期間として取り組むこととなった。

環境と暮らしを支える森林・林業・山村再生運動

「地域の森いきいき計画」

組合員とともに築く協同生産体制
適正な森林整備活動を主体的に展開し組合員による事業利用の拡大に取り組み、後世に価値ある森林資源を残します。

「国産材安定供給計画」

系統が一体となって取り組む国産材流通促進
ユーザーの声を聞き、ニーズに適切した良質の木材を効率的に安定供給し、健康で安心豊かな「住生活」を支えます。

「経営革新計画」

信頼され仕事を任せられる組合へ
地域から信頼され仕事を任せられるために経営革新と情報発信を行い、地域社会の森林管理体制を担います。

森林組合系統組織を挙げて取り組もう人権問題

人権問題の取組に当たっては、女性子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等、刑を科せられて出所した人などへの偏見や差別を除去する等を内容とする国民行動計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野においての自らの問題として積極的な役割の発揮に努めます。

人権問題の啓発推進に取り組むこととなる基本事項



森連組合長会議開催

十月十日(木)、本会二階会議室において組合長会議を開催し、次期系統運動、森林組合法改正を説明し、「香川県森林組合改革プラン」の課題である県下組合への協議、検討し、今後、各組合において合併の検討を十分行い、再度検討することとなった。

平成十六年度「緑の雇用担い手育成対策事業」の実施にあたって

「緑の研修生に参加して今思うこと」

平成十七年度 緑の研修生 小池 伸幸



早いもので緑の雇用プロジェクトに参加して九月が過ぎようとしています。残すところ一ヶ月弱で本研修も修了です。昨年の六月から他の二人の研修生の方々とともに、香川県森林組合連合会さんの指導の下、研修を実施してまいりました。...



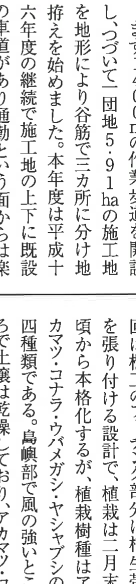
「緑の研修生になってからは、今まで以上に自然を意識するようになった」といいます。緑の研修生になってからは、今まで以上に自然を意識するようになった。...



ないに報道してまいりました。実際には、森林の成長率は開伐することによって開伐前と比較して平均値で16パーセント最大では33パーセントと向上するとの実験結果があるそうです。...

本島、山火事復旧その後

香川県西部林業事務所から発注された、本年度で三カ年目を迎えた離島振興保安林改良事業は十一月二日より九竜市産業部農林水産課、本島支所神崎所長、大浦自治会長倉等のご尽力を頂き三班体制、十五名の作業員で開始しました。...



斜面で困難を極めているが、切り株、岩石を避けながら階段切り付けをし、柵工(金網)4730mを新規に配置するのだが、新任の班長には全体のバランスという面での苦労をいたしました。...

林業コンサルタント室だより

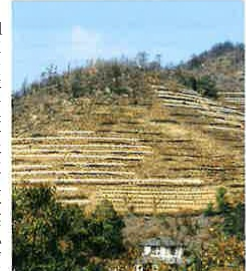
平成十七年度も後わずかになり香川県では、測量設計業務の成果図等において今年度17年より電子納品となりました。この香川県電子納品システムは従来紙で交換されていた情報を電子化するのと同時に、ネットワークを活用して各業務プロセスをまたぐ情報の共有・有効活用を図ることにより、公共事業の生産性向上やコスト削減を実現するための取り組みの一環として調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子データ(要領・基準/ガイドライン)に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたもの)で納品し業務の効率化、省資源、省スペース化を図る意図があります。...

観音寺市(豊浜町)生活環境保全林整備事業

豊浜町箕浦の魚見山にあるこの事業の現場は国道11号線から二望できる場所にあり、2005年度に事業を終了する予定であったが2004年の台風被害により一時中断、本年

度の完成予定となった。台風被害により林内作業道(構造物を含む)が破壊され作業道復旧に手間取ったがそれもようやく終了し、現在は植栽工と案内板等の設置を残すのみとなった。完成後は観音寺市が地域住民に対して積極的に利用促進を図ることであるので、最後まで気を抜かず竣工を目指してゆきたい。

No.1 離島振興保安林改良事業進捗状況報告について



【No.1】離島振興保安林改良事業現場は、香川県直島町にあります。現場は、火事後であり表土がむき出し、土砂が雨によって山肌筋が崩れている状態です。

今回の現場は、山のしわが多く柵工の施工が難しく、施工地内に崩壊地が点々とあり、筋工を施工するのも難しい状況でした。しかし、現場作業は、二月上旬の段階で、地拵え柵工筋工がほぼどが立ち今後は、植栽の施工に取りかかる予定です。...

